

## ■ 住民自治協議会から提出された意見等

※到着順・原文のまま掲載

自治協名	内 容
青山住民自治協議会 会長連絡協議会	<p>現庁舎は築 50 年以上で老朽化、改修工事をして 20 年程度しか耐用年数がなく、使い勝手が悪いと、取壊し、複合施設として新築すべき。現庁舎跡地全体を活用した商工会議所ご提案の「お城テラス」が賑わい創出には最適と思われる。</p> <p>大型バスの駐車場は、城北駐車場を専用駐車場として、現庁舎跡地に設ける駐車場は個人向けの立体駐車場を建設、イベント広場や展示会場を常設して集客を狙う施設が望ましい。</p> <p>なお、現庁舎を取壊し、更地として大型バス専用駐車場に活用し、後世に建物を建築することから発生するランニングコストを残さないという意見もあり、また、物産展示販売も中心市街地だけでなく、周辺地域の生産物も紹介して、現地へ足を向けてもらう発信基地的な役割を果たして欲しいとの意見もありました。</p> <p>連絡会の意見集約として、現庁舎解体で一致しました。</p> <p>新庁舎が平成 30 年の秋に完成、合併特例債の期限が平成 31 年までという事業化スケジュールで、実働期間が今年を含めて 4 年しかない為、現庁舎の取扱いだけでなく図書館や芭蕉翁記念館の新築も合併特例債を活用するのであれば、優先順位を決めて、事業化を進めるべきと思います。</p>
久米住民自治協議会 (代表者の意見)	<p>※久米 5 町（久米、木興、四十九、陽光台、守田）の意見を取りまとめることは不可能であり、代表者の意見として提出</p> <p>旧庁舎新築、図書館そのまま改装の案に賛同します。</p> <p>経費は出来るだけおさえる事、旧庁舎は観光施設に、食事場所の確保を。</p>

阿波地域住民自治協議会	<p>( P . 1、6 )</p> <p>「伊賀市賑わい創出」のためのグランドデザインは、上野丸之内を中心とした「中心市街地」地域に限定した議論は理解できない。「多核分散」「地方創生」が伊賀市の施策の柱となっているにも拘わらず、矮小化されている。</p> <p>( P . 7 )</p> <p>先ず、伊賀市のような地方弱小都市にあって、中心市街地に「ひと・もの・かね」を集積することの是非を先ず議論する必要がある。</p> <p>現実に伊賀市の市街地がこれ以上画期的に発展することは到底考えられず、むしろ、市全域に広がる自然環境を活かした田園都市としての「地方創生」を目指すべきである。</p> <p>( P . 10～33 )</p> <p>上記の考えから、施設の再配置については、新庁舎に60億円、今回の整備に20～30億円、伊賀線維持に10年30億円など、財政逼迫というものの箱モノばかりに財源を集中せねばならない状況であり、これらを極力低減化することが必要である。</p> <p>人口減少の地方都市に有って、鉄道維持は理解しがたい。</p> <p>従って、南庁舎は解体して一部屋根付きステージのあるお祭り広場と駐車場、図書館は部分改築による利用が最適である。</p> <p>(全体)</p> <p>膨大な資金を要する公共施設投資をできる限り節約し、その原資を地域の創意工夫が生かせる自由度の高い「地方創生」の資金に充てることを望みます。</p>
川東区民 (壬生野)	<p>現在の庁舎に建てて南舎も解待する。</p> <p>理由</p> <p>忍者の里・伊賀観光の都市でもあり。戦国時代（忍者が）、百地三太夫と織田信雄軍の戦に勝ったが為織田信長がおこり伊賀の寺社の焼き払われたのである。</p> <p>現在、壬生野地区では戦後70周年の年に伊勢サミットが開かれ、三重県、全国世界の人の忍の国と申される伊賀もたくさんの方がおとづれます。しかし世界ではイスラム国の資本主義、民主主義の戦いで人類無差別の戦いこそ昔の戦国時代になっています。</p>
川西青葉台区民 (壬生野)	<p>芭蕉翁記念館に於いて翁の履歴、歩んできた歴史、人生観等をスクリーンで20～30分放映して欲しい。</p>

<p>東部地域住民自治協議会</p>	<p>東部地域としては一応主な自治会長さんや各部会長さんの意見を聞いてみましたが中心市街地から少し離れていることもあって、これと言った画期的な意見は少なかったと思います。</p> <p>私感ですが、これまで5回の賑わい創出検討会議に出席させて頂き、2回の説明会に参加させていただきましたが、感想としては一般市民の感心が低いと思いました。説明会1日目は2月19日(金)ハイトピア3階で行なわれましたが、50名程度の参加者数で若い人の意見もありまああの成果がありました。2日目の2月20日(土)にも期待をして会場に行きましたが、何と前日の半数程度の参加者で雨が降っていた事もありましたが広い大研修室は寒々としていました。もっと一般の市民に賑わいの意味を周知していただく方策があると感じました。</p> <p>これまで5回の協議会を開き内容を説明していただきましたが、今一つ盛り上がり少なく、次代を担う若者の考えが聞ければと思いました。</p> <p>とにかく高齢者にとって(ランドデザイン)とか(パブリックコメント)のカタカナは理解出来にくいのではないかと、パソコンの便利さもままならない市民も多い中で理解を求めるのは難しい事だと思います。</p> <p>それでは7日の最終協議会を楽しみにして居ります。</p>
<p>花之木地区住民自治協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【1-あ案】に賛成する</li> <li>・市街地の活性化は地域内の住民だけでは難しい。</li> <li>・観光客や来訪者が集まってくる、行きたくなる施設や催物により賑やかになる核が出来ればその波及効果により、市街地も良い影響を受ける。</li> <li>・地域内での足の引っ張り合いではなく、共に共存しながら質を高めていくことが必要となる。</li> <li>・特に、芭蕉記念館に関しては国際的にも、日本文化、伊賀の風土を反映する 周辺整備、建物が望まれる。</li> <li>・そのため、今後も行政、商工(会議所)関係、学識経験者等の強力なバックアップが望まれる</li> </ul>
<p>依那古地区住民自治協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には主案の南庁舎を解体・除却に賛成ですが、複合施設については今後10年、20年先を見据えた伊賀市の姿を反映できる施設を作り、市民が気軽に活用し交流できる場としてほしい。また、伊賀市の観光を中心とした情報発信地にしてほしい。</li> <li>・駐車場については、観光バス専用駐車場及びイベント等、多目的に使える駐車場にする。</li> </ul>

<p>布引地域住民自治協議会</p>	<p>(P.1 6行目「…必要な機能を中心にまとめる…」)</p> <p>国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、地方の活性化を推進するものと理解している。地方とは、国から見れば首都圏東京から県へ、県から見れば県庁の所在地から市町へ、市町から見れば周辺地域へという体系を基本としていている。しかし、その理念とは逆の施策・構想を伊賀市は進めている。「必要な機能を中心にまとめる」ことを目的とする動きは、国の地方創生の意図に沿っていないと断定できる。まず、この考え方を修正しないとすべてが前へ進まない。雑多の意見の提出・時間・多額の浪費及びエネルギーの放出だけで集約が不可能である。「無駄」をなくすることを第一義とする岡本市長の行政姿勢とはかけ離れている。また、国の動きについては各省庁の地方分散も進める方向にある中、伊賀市では旧本庁北庁舎を解体後、地方支所施設に分散しており、住民も行政職員も今の状況に慣れてきていて、各支所の空場所を有効に利用し、ある意味地方分散体系を推進した形であり、あえて中央集約の必要性がない。耐震期間中は出来るだけ現状維持に努め、新築施設は極力減少すべきである。</p> <p>(P.6 最下段枠内 1行目)</p> <p>基本方針の「①地域間連携…」とはどういう意味ですか。</p> <p>(P.7 「中心市街地がはたしてきた役割」の枠内の 1行目 (◎伊賀市の玄関口))</p> <p>「伊賀市の玄関口」という表現は全く不適切である。他地域から来る人は「空」から来ない。全ての来訪者は陸路で来る。地理的・人口密度・施設数から見ても、本庁のある市街地が中心となっているのは納得できるが、決してそこが玄関口ではない。伊賀市と隣接する周辺地域が本当の玄関口であり、その玄関を通過してこそリビングなり応接間に入ることができる。その考え方を基本として伊賀市全体を見なければいけない。同じ玄関でも正面もあれば裏から、小屋から、西から、東から、南から、北からとさまざまである。基本的な軸をしっかりしないと、平等・公平が保たれず格差の拡大になるだけである。</p> <p>(P.8 「7. 新しく整備すべき施設のイメージ」)</p> <p>「新しいまちづくり」に必ずしも「新しい施設の整備」が必要ではない。今ある施設の利活用を優先して伊賀市がその手法を先行して考慮すべきである。雑多な意見のある状況において早く決着をつけないと、有利な合併特例債や交付金・補助金等が使えなくなる。あれもこれも一気に出来るわけがない、人口減少が確実に進行している状況で、どの分野に重点を置くのか、それぞれ優先順位を決定して諸事に対応しないと「2 兎を追うもの 1 兎をも得ず」になってしまう恐れが充分考えられる。</p> <p>(P.13 B - 1 案左説明文 1、2行目)</p> <p>現南庁舎場所は「…市民にとって集まりやすい場所となる」と表現しているが、導線は確かに連絡、鉄道共存在しているのは間</p>
--------------------	--

違う。しかし、市民にとって集まりやすいのだろうか。南庁舎の東側駐車場・ハイトピア地下駐車場とも設備はあるものの「入りにくく、出にくい」のが現状である。原因は、誰もが承知する丸之内交差点と近接する伊賀鉄道の踏切、更に不合理的な信号機設置にある。目の前に見えていても駐車場へ入るには、青信号を2回も3回も待たなければならず、かなりの時間消費がしいられ、駐車場から出る時も同様の減少が発生し「入りにくく、出にくい駐車場」となることは容易に予測できる。そうなれば、設備が立派でも観光エリア（地域外来訪者）と市民交流エリア（地域住民）が混合することによって、結局は観光事業も住民交流事業も共倒れとなる。車社会の現代において駐車場の利便性は欠かすことの出来ない条件である。入りやすく出やすい駐車場であれば、誰人も徒歩移動に時間をかけられ、それこそ市街地の賑わい創生になる。周辺地域の公共施設は、どんどん整理・統合・廃止の方向にあり、土地の狭い中心市街地に新しい施設を建設しても効力がなく、地域間格差が大きくなるばかりである。

上野南部地区住民自治協議会	<p>・小、中学校、高等学校が隣にあり、図書館と芭蕉会館を建設すればよいと思う。        学生たちが気軽に集える空間を広くした閲覧場所の確保。        小さな子供も楽しく遊べる場所を造ることで、親子の来館がしやすいようにする。        他所で成功している図書館のように企業とのタイアップ。例えば、喫茶店や文房具、書籍の販売等の企業との合同企画。        芭蕉会館を併設することで、公園に来た観光客も気軽に立ち寄れる施設にする。        庭園の確保。        観光バスや乗用車が多く止められる駐車スペースの確保。</p> <p>・現庁舎跡地を岡波病院に売却し、市の医療の中心になるようすることが大事。</p> <p>・使い勝手の良い公園にするべき。お城などの関連性が強い場所であり、旅行者の方々がちよっと休める処、高齢者の集会場、子どもの遊び場など、そのもの自体がお金にならなくても「場」があるという、豊かさを示してほしい。</p> <p>・西小学校の古い体育館を解体し、庁舎跡地に体育館を新築してはどうか。普段は、西小学校が使い、市のイベントや災害時に利用できる設備の整った体育館を市民のためにもなると思う。</p> <p>・体験学習の場として伊賀焼の市民窯を受益者負担で導入されたい。伊賀焼はあまり世間に知られていないことから、宣伝の必要がある。</p> <p>・必ず、南庁舎を取壊し、伊賀市としてのシンボリックな建物を要望する。</p> <p>・地下スペースを設け、最低100台駐車できる駐車場の整備を望む。</p> <p>・伊勢の「おかげ横丁」のような基点を中心に「かぎやの辻」から芭蕉生家、城、忍者博物館などをめぐる歩道路（忍者コリドー）の整備を。</p> <p>・災害時の多目的ホール設置</p> <p>・観光</p> <p>市長は海外まで宣伝に行っているの、庁舎を解体し平地にし、バス駐車場等にし観光客を誘致する。平地であれば、災害時やイベントなど多方面、多目的に活用できる。</p> <p>・収益性のある物産販売</p> <p>伊賀物産 PR ブースを設置、ゆるきゃらは常駐で。</p> <p>・現存南庁舎の解体及び新設を前提</p> <p>①利活用のイメージは議会案のイメージで、複合機能を有する施設造りに賛成</p> <p>②商工会議所案の「お城テラス」の建築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1階は、市民・観光客を集客できる市街地拠点とする（食事処、土産、観光案内関係の誘い）</li> <li>・2階は、図書館の移転 スターバックス等をテナントに老若を問わず休憩場所（WiFi 環境要）</li> </ul>
---------------	---

	<p>佐賀県、神奈川県に TUTAYA 図書館が開設されたが、ミニ版として新しい図書館のイメージ作りとコミュニティースペース（カフェ）の確保により、人が来る賑わい創出につながると考える。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・体験型観光施設の設置と食事処を設置し、観光客の増加を図る。</li></ul>
--	--